

議事録（要点筆記）

会議名	令和5年度 野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会					
開催日時	令和5年6月30日（金）午後1時40分～午後2時50分					
開催場所	野村胡堂・あらえびす記念館ホール					
審議会次第	1 開会 2 挨拶（町長） 3 職員紹介 4 報告事項 (1) 令和4年度事業報告について 5 審議事項 (1) 令和5年度事業計画について (2) 開館30周年記念事業（案）について (3) その他 6 その他 7 閉会  企画展見学、嶺貞子LPレコード鑑賞					
運営委員出欠状況	会長	江藤 <small>ひでいち</small> 秀一	出	委員	鈴木 <small>ふみひこ</small> 文彦	出
	委員	岡崎 <small>まさのぶ</small> 正信	欠	委員	住川 <small>みどり</small> 碧	出
	委員	杉本 <small>つとむ</small> 勉	出	委員	山際 <small>まさゆき</small> 正之	出
行政	町長 熊谷 泉			副町長 藤原 博視		
	教育長 侘美 淳			教育部長 阿部 薫之		
	生涯学習課長 須川 範一			歴史文化係長 岩館 岳		
指定管理者 （記念館協力会）	野村胡堂・あらえびす記念館協力会 理事長 野村 晴一			野村胡堂・あらえびす記念館 館長 岩崎 雅司		
	野村胡堂・あらえびす記念館協力会 常務理事（記念館事務局長） 長澤 成喜					

進行（生涯学習課長）

1 開会

2 挨拶（町長）

さまざまなことがコロナ禍前に戻りつつある。令和 7 年度に記念館開館 30 周年を控えているが振興を図っていききたい。忌憚のない意見をお願いしたい。

3 委員・職員紹介

4 報告事項

<事務局> 「令和 4 年度事業報告について」を説明

<委員> 第 2 回企画展関連事業、生誕 140 年記念対談「胡堂のふるさと」の出席者はどのような内容か。

<理事長> 対談の出席者は出席者が 50 人くらいで男性が 4 割女性が 6 割くらいの出席比率。年齢的には 70 代が 40%くらい、次は 60 代。比較的高齢。町内の出席者が 60%くらい。盛岡など町外は 40%くらい。

<委員> 出前講座を 3ヶ所で実施し 37 名の参加とあるが、具体的にどんな内容なのか。

<記念館事務局> 近隣の公民館や盛岡の中央公民館で蓄音機で曲を聴いたり、上田公民館では「あらえびすの聞いた喜びと悲しみ」というテーマをもらい、実際の音楽とあらえびすの文章を紹介して大変好評であった。

<委員> 胡堂先生が東大の緑会でやっていたプログラムを広報してはどうか。

<教育長> 緑会で使ったレコードプログラムも残っていてそのまま再生することも可能なので広報していきたい。

<委員> 令和 4 年度の入館者数が増えたのはコロナが収まってきたから増えたのか。

<記念館事務局> 令和 2、3 年度はコロナの関係で記念館が臨時休館した時もあったが 4 年度はコロナが収まったのもあり、すべてのイベントが実施できたので増えている。

<委員> 4 年度の 9 月が特に多いが、これはなぜか。

<記念館事務局> 協力会の自主事業の中でキッズフェスティバルがあり、これの入場者数が 800 名近くある。

<委員> 2 月も 3 倍くらいの入館者数があるがこれは。

<記念館事務局> サクラナミキプロジェクトのコンサートが 2 日間あり、その事業で増えている。

<委員> 学校支援プログラムや他の団体に利用していただく入館者数を増やすのに大変効果がある。特に子供たちに自然と記念館の存在を思い出として残していけるような仕組みを作っておくといいと思う。

5 審議事項

<事務局> 「令和 5 年度事業計画について」を説明

<委員> 運営事業で販売手数料が 27,000 円とあるが、書籍が売れるとその手数料が入ることか。

<事務局> 書籍の販売は野村胡堂あらえびす記念館協力会の方に委託しており、その手数料として 20%分を協会へ支払いをしている。

<委員> 書籍は一般の書店等では入手は難しいのではないかと思います。本の存在があまり知られていないと思うが、一般の方に周知する方法をもっと考えた方がいいのでは。

<記念館事務局> 書籍の内容は一般で販売しているものもあれば、ここでしか手に入らないものもある。

<委員> 書籍が売れるということは関心をそれだけ高められる。来館者数を増やす効果を期待できると思うので、何らかの方法で本の存在を世間の人に周知できるように考えていった方がよい。

<教育長> HP と ICT を使いながら、学芸員と広報しながら広く周知していく。

<委員> 元 OB として補足だが、在任中は講演依頼があった際にレジメの最後に必ず当館で販売している書籍、書店で入りにくい本も売ってますってことは必ず書くようにしていた。そういうきめ細かい情報発信というのでも継承していただきたい。

<委員> 何か他に意見はあるか。

- <委員> 読書感想文、音楽感想文コンクールについて、子どもたちに発表の機会を与えると文章で自分独自のものを表現したり、言葉で表現したり個性豊かに表現できるので、これからの時代にすごく大切だと思う。
- <教育長> 読書感想文、音楽感想文コンクールはいろいろな自治体と数回重ねているが、音楽の授業でも自分の好きな音楽を選んで感想を述べてもらうということを進めている。今、工夫しているのがクラシックだけじゃなくて民俗音楽や K-POP、J-POP も含めた好きな音楽に対して意見を述べてもらうということをしている。
- <委員> 読書感想文コンクールは令和4年度は応募総数が173点、音楽の方が昨年よりも10名増えたが令和2年の116点には及ばない。歴代2位の応募点数ではあったのでいろんな形で広報して増やしていければ。
- <委員> 何か他に意見はあるか。
- <委員> 新聞に掲載されていたが、静岡の沼津に名盤レコード鑑賞会が40周年を迎えたという記事が出ていた。文化会館のようなところを使って定期的に鑑賞会を開いているそうだ。こういった愛好会や同好会が他にもあるのであれば、連携を取りながら意見や情報交換していけばいいのではないかと思う。
- <委員> 東京の神田、神保町に富士レコード社という中古レコードを売ってるお店があるが、ここであらえびす記念館の資料を置いている。これは町もしくは記念館が連絡を取り合っているのか。
- <記念館事務局> 学芸員も行ったことがあるし、情報交換はしている。常に連携は取っている。
- <委員> どういう方が経営しているのか。記念館には来たことがあるのか。
- <委員> ここに来たことはないが、記念館には高い評価を頂いている。レコードに詳しい方が3人くらいいる。
- <委員> そんなにお客さんが入るお店ではないが、あそこに来る人は非常に音楽に関心の高いお客さん。積極的に資料提供するといろんな情報が広がるのではないか。
- <事務局> (「令和7年度 野村胡堂あらえびす記念館開館30周年」について説明)
- <委員> 30周年とからめて言うわけではないが高齢な先生方が貴重な資料をお持ちである。そういう方の資料の整理をしていくことも必要かと思う。
- <委員> 来年は山崎直子さんが来るが、小山実稚恵さんを呼ぶことはできないか。盛岡に縁のある方なので何とかできないか。
- <教育長> 県民会館等でサロンコンサートを開催しているが、エージェント所属なのか個人なのかわからないのでリサーチしながら検討を進めたい。
- <委員> 30周年に向けてこれからどのような広報活動をする予定か。日頃の活動を通して折に触れて伝えていくか、山崎直子さんに来ていただくような花火的に大きく上げて第二弾、三弾としていくか。記念館の入場者数の目標値を作って、何かを売っていくなどの計画はあるのか。
- <事務局> 盛岡市先人記念館さん等、先に30周年を迎えているところを参考にしながら進めようと思っているが、目標数値を定めるのは必要と思うのでそのように進めていきたい。
- <委員> テレビ、新聞等も含めながらスマホでの広報はどのように考えてるか。
- <記念館事務局> 現在のところフェイスブックが中心にはなっているが、そのほかのSNSも含めて、様々な年代にアプローチしていきたいと考えている。
- <委員> 最近、見ていると中古文庫の再版や復刻が多い。記念館の30周年の冊子にも帯でなにか謳ったりできるようなものがあればいいと思う。

## 6 その他 (特になし)

## 7 閉会